

<4時から夢塾> 教材は、「生徒の思考の曖昧さから迫る」

第17回「4時から夢塾」は、2月4日（木）に、南中学校の村山勉先生から「理科の教材観と教育観」を演題に、『校長メッセージ』を頂いた。村山先生が、理科の教員として大切にされた自然事象や教材観、そして、校長としてビジョンを示し、実行する等の話から多くの学びを頂いた。



1 自然，理科教材

- ・身のまわりの不思議・水槽の中の魚の大きさ。生卵が立つ。太陽の位置と大きさ。走る新幹線の中でジャンプをしたら後ろのドアに激突？。地球の自転で、空にいる鳥は瞬く間に遠くに行く？等。
- ・身のまわりのとらえ・おもりを手のひらで持つ。紐で吊るして指で持つ。どちらが重いか等。
- ・教材研究の必要性・若い頃、舌は甘い辛い・を感じる部位が決まっている。今は間違いとされる。



- ・中越地震(2004年10月23日17時56分発生)。活断層研究会で、地震後の地層を調査。柿地内の塵の最終処分地の露頭が見える場所でスケッチ(表土50~70cm, 小山層5m, 栖吉層20m)した。
- ・浦瀬川・麻生田川・乙吉川が各数100mに渡り、東山丘陵側が北に平地側が南に動いた(断層傾向)。
- ・生徒の科学研究の手伝いをした(Mgの酸化。食塩水の電気分解。酸化銅の還元)。水の上に立てたローソクの火を、コップで遮断しても燃え続ける「手品の不思議」は、良い賞を貰え思い出深い。

2 指導，教育に関わること，たよりの内容など

- ・「笑顔南中」・努力して味わう喜びと楽しさ→頑張る、頑張る出来た時に味わえるものである。
- ・授業のスタンダード「姿勢は命」・椅子に座る時は立腰に！立腰とは腰を立てる姿勢のこと。
- ・授業で完結・宿題はやめる→授業の充実と補充学習(授業をきちんとやって家で復習が出来る)。
- ・求める学力とか、測れるとか測れないとか言う前に、見に見える成果を示してもらいたい。
- ・少人数指導は、教師に同じ力があるとの考えから。実際は、指導力に差があり授業力を磨いて欲しい。
- ・生徒の視線から一歩引いて・生徒とともに活動しながら、近くで見たり、遠くで見たりする。
- ・井戸が濁ってきた・別の井戸を掘る必要はない。直球勝負だけでなく、別の視点を大切にする。
- ・地域コミュニティとコミュニティ・スクールは別なもの。前者は、住民同士のつながりや集まりで、後者は、学校運営協議会制度を取り入れている学校であり、両者をごっちゃにしないこと。



参加者の声

- ・理科の大先輩の村山先生から、久しぶりにマニアックな理科の話が聞け、とても良かった。
- ・理科の中での生徒の捉えを改めて見直すことが出来た。当たり前を当たり前と思わない。
- ・授業で身のまわりの不思議や生徒の理解の曖昧さから追求に迫ることは、どの教科にも通ずる。
- ・「授業で完結」はすごいと思った。「家庭学習プランニングタイム」の廃止などに信念を感じた。
- ・学校のリーダーとして、ビジョンを示し、実行する力強さに感動した。判断力・内容の整理(単純化、構造化)、合意形成、全体に向けるまなざし等、たくさん学ばせてもらい勇気づけられた。